

GEIBUN GALLERY

地域連携プロジェクト 芸文ギャラリー

富山大学芸術文化学部 コーディネーター 羽田 純



2013年中のピックアップ企画

芸文ギャラリーは、芸文学生の①授業成果・制作活動の発表、②地場産業活性・まちづくりと地域発信を軸に、③その他アートやクラフトという要素を補いながら、ここ高岡市に存在するあらゆる文化資源を有効に発信・編集することを目的としている。ものづくりを柱に生成されるコミュニティは地域にとってかけがえのない有機的な出会いを産む『場』であると同時に、学生にとっても学校だけでは経験することのない刺激や発見、出会いの『場』にもなりうる。これらの活動を通じ、情報や文化の発信により街のにぎわい創出にも結びつくよう、企画・運営を目指す。

開設7年目となる2013年は、大学院生・学部生の授業成果展の充実や、東京での大規模なキャラバン活動、高岡クラフト市場街への参画など、全国一地元と様々な場所で、更に充実した運営になった。

■ 院生展

これまで、学習成果の発表としては卒業制作展の優秀作品を再展示する「PRIZE COLLECTION」が最年長の展示であったが、大学院制度が2期目を迎えたことで、弊廊でも「院生展—富山大学大学院芸術文化学研究科修士課程 作品展—」と題し、1年生・2年生を2会期に分けて展示した。1年生の部では作品講評会のゲストとして金沢大学非常勤講師寺尾健一氏を招聘し、幅広い見地から講評をいただいた。一方、2年生の部では、最高学年ということもあり、非常に精度の高い作品が並んだ。両会期とも、絵画・彫刻・建築・デザインなど、複数のカテゴリを複合した展示となったが、質の高さゆえ、来場者からも非常に好評であった。

・院生展—富山大学大学院芸術文化学研究科修士課程 2年生作品展—

呉 帝彦／OH JAEON、江藤 玲奈／ETOH RENA、金田 慶子／KANEDA KEIKO、蒲 由奈／KABA YUNA、川越 ゆりえ／KAWAGOE YURIE、桜井 裕子／SAKURAI YUKO、高橋 ゆり／TAKAHASHI YURI、多智 彩乃／TACHI AYANO、田村亜佑美／TAMURA AYUMI、宮崎 遼／MIYAZAKI RYOの10名。

・院生展—富山大学大学院芸術文化学研究科修士課程 1年生作品展—

近江 絵里子／OMI ERIKO、志水 ゆめか／SHIMIZU YUMEKA、中原 千尋／NAKAHARA CHIHITO、中道 枝里／NAKAMICHI ERI、包 恩和／HOU ENHO、柳瀬 香奈／YANASE KANA、涌井 裕介／WAKUI YUSUKE、渡辺 祐也／WATANABE YUYAの8名。





■ それゆけ、図工女子美術館！

2010年より、芸文ギャラリー企画展として結成された女性クリエイターユニット「図工女子」。発足以来、常に高い人気を保持し、2013年は計3度の展覧会を開催した。本年度は東京新丸の内ビルを舞台に大規模な展覧会からスタートし、芸文ギャラリーや京都での巡回展など、新しいステージにもチャレンジした。これまでは県内の作家や卒業生、在学生などとチームを組んだ自己発信型の展覧会を行ってきたが、今年度は富山をテーマに作品を制作・発表することで、県外者に対しアートを織り交ぜながら斬新な切り口で地方をPRした。

・ トキメキアート、おいしい富山のつくりかた！編

今年4月、東京新丸の内ビルを舞台に富山県は、全国紙Discover Japan主催のもと、富山県発信型の食の祭典を企画した。飲食フロアである同ビル7階の全ての店舗のメニューに富山県産の食材が特別メニューとして使用され賑わうこの期間、図工女子は主催側からフロア全体の装飾を依頼された。富山県を代表する食材をモチーフに、装飾全体を「図工女子美術館」と題し、館内全体を美術館に見立てて壁面や床などへ配置した。設営・準備には総勢30名の学生有志が集まり、約2万枚の紙輪を繋げたインスタレーションや、約200点の作品が会場を埋め尽くした。

“地方”という概念を地元のクリエイターが県の依頼を受け、これらのような切り口でビジュアル化する試みは極めて珍しく、「カワイイ」作品達も相まって連日多くの来場者で賑わった（来場者数前年比115%）。

・ ガールズアート革命、夢見るキュートな呉服店！編

新丸の内ビルでの好評を受け、京都は東山での巡回展オファーを受けた。八坂の塔に通じる「八坂通」に面した好立地の人気呉服店の2階をギャラリースペースとし、約一ヶ月の展覧会を実施。祇園祭と重なった最終日には“図工女子夏祭り”と題したレセプションを行い、八坂通を通る来場客とふれあった。

・ 富山巡回展！編

同じく、巡回展は図工女子達の地元高岡でも開催した。芸文ギャラリー・富山大学芸術文化学部の2会場に分け、同会期で行った。上記の通り、これまで自己発信型であった図工女子が、富山県をテーマに大舞台で作品を発表したことで、地方クリエイターと自治体の新しい関係も提示された。





■ 高岡クラフト市場街

本年度で27回目を迎える「工芸都市高岡クラフト展」を柱に、行政／大学／民間が協力し、様々なものづくりイベントを同時開催することで、「点」ではなく「面」としてのアプローチを試みた。昨年の初開催に続き、より規模や内容を充実した本年度も、多数の学生有志と共に、芸文ギャラリーでも積極的に企画へ参加した。

・作家のひきだし展



「高岡クラフト展」出品作家が、会期中まちなかの様々な店やギャラリーなどで、本会場とは別の作品（つまり、ネタのひきだし）を発表する企画である。個々のアイデアや創作性の奥行きや広がりを楽しむことができるだけでなく、街に回遊性も生まれた。4箇所ある各会場にはそれぞれ担当の学生有志を1名以上配置し、ショップ定員や取り扱う作家と個別に相談することによって、社会とのより密接な繋がりやマネジメントを実践的に学ぶ場となる仕組みづくりを行っている。

・木樽と土釜の仕事展ーヤマゲンの醤油と、工芸作家による10の醤油差し展ー

山元醸造株式会社は、現在国内で稼働している約1,500ある醤油メーカーの中でも、11番目に古い歴史を持つ小さな醤油製造会社である。1772年に室屋（味噌の素になる、麴の製造販売）を創業して以来、ここ高岡の家庭に『料理の引き立て役』『家庭の味』を提供してきた。

時代により変化する私たちの食生活は、もちろんその調味料のあり方にも大きな影響を及ぼしている。あまり知られてはいないようだが、そもそも味噌や醤油はその昔各家庭で作られていた。本展では、当たり前のように使っている醤油にはどのような種類があって、今どのような変革を遂げているかなど、ヤマゲンと醤油の歴史をなぞりながら、私たちの食生活がどのように変化してきたのかを検証したものである。

さて、本展におけるもう一つの目玉となる、創作醤油差したち。ガラス、陶芸で活躍する県内外の優れた作家にお声がけし、今回のために制作していただいた。醤油差しなど、本来スーパーで醤油を購入するのとついてくるものではあるが、目の前に並べた作品は、どれも今まで感じたことの無い食卓の楽しみ方を提供してくれる。

富山を題材に食卓を彩るものは、海産物や盛り器だけではない。その引き立て役となる「調味料」にも趣を感じていただこうという趣旨だ。ヤマゲンには古き良き時代の趣を残す大きな木樽と、昭和中期に諸外国の建築から当時最新の発想を得て建てた工場やマシンなど、その現場には時代と同じ歩幅で歩み続け、チャレンジしてきた“日本の中小企業”のリアルな姿がある。背伸びをしない、まっすぐな姿勢で私たちのもとへ届くよう、今日も“普通”の醤油を作り続けている。

近年、地方都市におけるモノづくりの現場にクリエイティブの風を吹かせ、様々な産業が日々活性化している。“アタラシイ”という言葉そのものが古くさいイメージを持ち、“ここにしかない・ここでしか出来ない何か”が商品として消費者の前に陳列されている。少し手法は



違っていたが、弊廊でも過去に富山県の細工かまぼこをテーマにした企画展や、老舗和菓子展の木型を展示した展覧会を開催してきた。しかし、それらのどれとも少し目線を変えた「私たちの生活の、普通の世界」として提案した。来場者数は芸文ギャラリーでの展示としては過去最大となり、賑わいを見せた。

なお、会期中開催されたレセプションでは、地元の料理を用意し、ヤマゲンを含めた6社の醤油を付け比べながら、味の特性を来場者と共に検証し、料理人から意見を聞くなど、能動的なイベントでもあった。



2013年のスケジュール

1/19	芸ギャラリーブ
1/21-29	NO MORE WALL
1/31-12	院生展－富山大学大学院芸術文化学 研究科修士課程1年生作品展－
2/14-25	MOTOTO TETO MONO (素と手と物)
2/28-3/5	らくがき展
3/1-3/18	NOWHERE
4/4-4/16	GEIBUN PRIZE COLLECTION 2013
4/10-4/21	それゆけ、図工女子美術館！
4/27-5/7	Tommy Dining Vol.10
5/11-26	図工女子美術館！富山巡回展
6/1-7	Gift
6/16-7/15	図工女子美術館！京都巡回展
7/11-16	匙店
7/18-30	この夏、このまちに生きるわたした ちが忘れてはいけないこと。そして いますぐできること。
8/1-7	corona exhibition
8/1-7	ヤルキッズアート道場 夏休みこども 教室
8/11-25	ヤルキッズアート道場 夏休みこども 展覧会
8/29-9/23	HONKI BOOKS
9/26-10/1	芸文の0号展
10/3-7	高岡クラフト市場街
10/3-7	作家のひきだし展
10/3-21	木樽と土釜の仕事
10/24-11/4	院生展－富山大学大学院芸術文化学 研究科修士課程2年生作品展－
11/7-12	たたかうことば、
11/14-26	芸文の秘密基地
11/28-12/10	覚
12/14-25	Tommy Dining